

様 式 C - 7 - 1

平成 26 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

1	4	6	0	3
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
3. 研究種目名 新学術領域研究（研究領域提案型） 4. 研究期間 平成 22 年度～平成 26 年度
5. 課題番号

2	2	1	2	1	0	0	1
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 細胞シグナリング複合体によるシグナル検知・伝達・応答の構造的基礎

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
0 0 1 6 4 7 7 3	ハコシマ トシオ 箱嶋 敏雄	バイオサイエンス研究科	教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
0 0 2 9 4 1 3 2	ヤマシタ エイキ 山下 栄樹	大阪大学・たんぱく質研究所	助教
0 0 3 5 7 1 4 6	サトウ チカラ 佐藤 主税	独立行政法人産業技術総合研究所・その他部局等	その他
1 0 3 2 2 7 5 2	マエナカ カツミ 前仲 勝実	北海道大学・薬学研究科（研究院）	教授
1 0 3 6 1 7 9 2	フカイ シュウヤ 深井 周也	東京大学・学内共同利用施設等	准教授
3 0 2 7 2 8 6 8	センダ トシヤ 千田 俊哉	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 ・物質構造科学研究所	教授

9. 研究実績の概要

最終年度である本年度では、多くのシンポジウムやワークショップを本新学術の班員がオーガナイザーとして開催した。6月には、第14回日本蛋白質科学会（6/25-27、横浜）で、シンポジウム「限定されたデータからの構造情報の抽出」（オーガナイザー：深井周也、稲垣冬彦）を本新学術と日本蛋白質科学会との共催で開催して、構造解析の難しいタンパク質等についての構造生物学の方法論について議論した。9月には、第52回日本生物物理学会（9/25-27、北海道）でワークショップ「シグナル伝達機構における構造細胞生物学的新展開」（オーガナイザー：石森浩一郎、前仲勝実）を共催して、生物物理学分野での構造研究の展開を紹介した。更に、第87回日本生化学会（10/15-18）ではプログラム委員としてシンポジウム「構造細胞生物学の新展開：イノベーションの起爆剤としての構造」（オーガナイザー：箱嶋敏雄・月原富武）を共催して、本新学術の成果を披露した。更に、11月には、第37回日本分子生物学会（11/25-28、横浜）でワークショップ「免疫受容体による細胞間コミュニケーションの新しい地平線」（オーガナイザー：深井周也、前仲勝実）を開催して、新しい構造生物学の進展を議論した。

6月には、第5回領域全体会議・第5回総括班会議（6月14-16日：ルスツリゾート、北海道）を開催した。領域全体会議では、計画班員の研究成果の発表に加えて、新たに発足した公募研究の研究代表者全員の研究計画や、研究上の戦略についての発表があり、共同研究の検討や、方法論についての情報交換が活発に行われた。総括班会議では、経過報告と共に、今年度の公開シンポジウム等の予定が決定されるとともに、構造生物学の今後の発展が議論された。

10. キーワード

(1) 構造生物学

(2) 分子生物学

(3) 生化学

(4) タンパク質

(5) 相互作用

(6)

(7)

(8)

11. 現在までの達成度

(区分)

(理由)

26年度が最終年度であるため、記入しない。

12. 今後の研究の推進方策

(今後の推進方策)

26年度が最終年度であるため、記入しない。

13.研究発表(平成26年度の研究成果)

(雑誌論文) 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

著者名		論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					

(学会発表) 計(0)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名		発表標題	
学会等名	発表年月日	発表場所	

(図書) 計(0)件

著者名		出版社	
書名		発行年	総ページ数

14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15.備考

--